

学校運営協議会議事録

| | |
|--------|--------------------|
| 校名 | 大阪府立富田林支援学校 |
| (准)校長名 | 校長:岡本 泰宜 准校長:向山 和子 |

| | |
|---------|--|
| 開催日時 | 令和6年11月26日(火) 9時30分 ~ 11時30分 |
| 開催場所 | 府立富田林支援学校 3階 多目的室 |
| 出席者(委員) | 安原 佳子委員(桃山学院大学 社会学部 教授)、北山 琢也委員(こんごう福祉センター さわやか 施設長) 小田桐 茂委員(富田林市立東条小学校長)、成澤 佐知子委員(四天王寺太子学園 施設長) 前田 晶子委員(南河内障害者就業・生活支援センター所長)、土本由紀子委員(本校PTA会長) |
| 出席者(学校) | 岡本 泰宜 校長、向山 和子 准校長、出浦 美果 教頭、関田 渉 教頭、間苧谷 眞吾 事務長 池田 修三 首席、下井 智史 首席、築 美緒 首席 |
| 傍聴者 | なし |
| 協議資料 | 令和6年度学校経営計画の進捗状況について |

議題等(次第順)

- 1 開会あいさつ
- 2 授業見学
- 3 協議
 - (1)令和6年度学校経営計画の進捗状況について
 - (2)令和6年度学校教育自己診断について
 - (3)意見交換
- 4 その他

協議内容等・承認事項等(意見の概要)

- ◆**授業見学**
小学部1年(学習発表会予行練習)、高等部2年(グループ学習)、高等部3年(体育)の授業を見学いただく。
- ◆**意見交換・協議の概要**
(1)令和6年度学校経営計画の進捗状況について
- 【**人権尊重の教育の推進について**】
委員)
・第1回協議会で子どもの意思表示について意見を述べたが、重点的に取り組まれているという報告を聞き、うれしく思う。
・「性」に関する取組みは重要と感じるが、学部や学年で特に大事にされていることはあるか。
事務局)
・小学部段階では、5・6年生を中心に、まずは人との距離感について指導をしている。
・中学部では、自分自身を守ることを大事にして、人との距離感や衛生面の指導のほか、妊娠などのリアルな話もしている。
・高等部では、各グループの実態に応じて指導している。家庭や施設と連携しながら、個別に取り組んでいるケースもある。
・性に関する課題が低年齢化している傾向にある。小学部でも携帯を持っている児童もおり、SNSの使い方等も関連づけて適切な指導について検討している。
・昨年度は保護者を対象に、今年度は教員を対象に、臨床心理士に講話をしていただいたが、子どもたちを対象とした講話も取り組んでいければと考えている。子どもたちには、大事なポイントをはっきりとした言葉で伝えることが重要。
委員)
・性の問題は非常に重要なので、今後も学校と家庭(施設)との間で相談しながら進めさせていただければと思う。
- 【**一人ひとりのニーズに対応した指導の充実について**】
委員)
・授業を見学して、個別の状況に応じて工夫して取り組まれていることがよく分かった。保護者にどのように伝えていくかが大事と思うが、学校としてさまざまな意見を取り入れ、改善しながら進められている。地域に開かれた学校として、一人ひとりのニーズに対応した良い取組みを見せていただいた。
- 【**キャリア発達を促す指導・支援の充実、関係機関との連携について**】
委員)
・障がい者の法定雇用率が上がる中、時代の流れに合わせて、ライフキャリアコースの拡大など、変化に対応した取組みをされていると思う。
・教育と福祉の連携について、学校と入所施設との連携は根付いてきていると思うが、放課後等デイサービスとの連携について、取り組まれていることはあるか。

事務局)

- ・必要に応じて学校と関係者とのケース会議を開催する等、情報共有の場を設けている。
- ・放課後等デイサービスと生活介護、就労支援等のサービスを併せて提供している事業所とは比較的連携が取りやすいが、放デイのみを展開している事業所との連携はもう少し深めていきたい。
- ・最近では、保育所等訪問支援事業を展開している事業所が放デイにも関わっておられ、学校見学に来られるケースが増えてきている。

委員)

- ・就労に向けてインターンシップのような取組みをされている放デイも最近増えてきており、学校との連携が必要になるため、学校と相談しながら進めているケースもあると聞く。今後そのような事業所がもっと増えてくれば、変わってくると思う。

委員)

- ・ライフキャリアコースの受け入れを拡大することで、今後希望者もより増えてくると思う。卒業後、就職先が決定してから就ボツに来られ、関わっていくことになるので、就職に至った経緯等がもっと早くから把握できれば、より良いサポートができるように思う。障がいのある人は経験が少ない場合が多く、進路決定にあたっては、選択肢を多く提供することが大事。進路先決定に至るまでの過程を知りたい。

事務局)

- ・基本的には本人の希望する業種に合わせて実習先を決めており、この数年で400社くらい進路先を新規開拓した。生徒と一緒に探しながら進めている状況。本校の定着率は80%くらい。離職者もいるが、ほぼ再就職できている。
- ・生徒の好きなことや得意なことを活かし、マッチングを大事にして、中学部から高等部に引き継ぐようにしている。
- ・府教育庁で中学部の職場体験実習が企画されており、本校でも参加希望者が多い。中学部から卒業後をイメージしている。
- ・1学期にハローワークの方に来ていただいて顔合わせを行っている。在学中から連携していくことは可能と考えている。

委員)

- ・学習発表会の予行練習で、子どもたちが頑張っている姿を見せていただいた。また、見学している子どもたちが素直に感動している姿が素晴らしいと感じた。
- ・ライフキャリアコースに自力通学の条件を外し、入口を広げたことは良いと思う。自力通学が難しかったとしても、自宅でパソコンを使った仕事など、可能性はいくらでもあると思う。子どもや保護者の希望を否定せず、いろいろ経験してもらい、好きなことややりたいことから、できることを見つけていくことが大事と思う。
- ・一般企業、特例子会社など、積極的に多くの機関とつながってほしい。

(2) 学校教育自己診断について

委員)

- ・生徒に対しては実施しないのか。設問を工夫して生徒にも実施した方がいいのでは。

事務局)

- ・府教育庁で「第二次大阪府教育振興基本計画における前期事業計画に基づく意識調査」が2月頃までに実施される予定。そのほか、いじめ等のアンケートや安全で安心な学校づくり推進事業に基づく人権に関するアンケート等、生徒を対象としたアンケートを実施している。

委員)

- ・いじめアンケートは数字で結果が出るのか。どのように取り扱われるのか。

事務局)

- ・アンケートの中で出た意見について、本人の名前が明らかな場合は、聞き取りを行う。名前が書かれていない場合でも、いじめ対策委員会で共有し、見守りを強化したり、必要な対応を個別に検討している。

次回の会議日程

| | |
|----|--------------------------|
| 日時 | 令和7年2月25日(火曜日)9:30~11:30 |
| 会場 | 府立富田林支援学校 会議室 |